

## MSC スプレンドィダの横浜発着クルーズ(4)

事務局長 池田良穂

クルーズ 4 日目の朝、MSC スプレンドィダは青森港に到着しました。今回の青森寄港の最大の目的は、青森のねぶた祭りです。「にっぽん丸」も同時に青森港に寄港していました。

着岸したのは、青函航路のフェリーターミナルの隣の一般埠頭です。スクラップの鋼材等が野積されていますが、クルーズ客船が停泊するまわりはよく整理されていて、大きな問題はなさそうです。ただ生憎の雨模様で、出入港するフェリーの写真もいま一つの状況なので、午前中に浅虫温泉まででかけることにしました。

夕方からは雨も上がりました。ねぶた祭りが行われる市街地中心までタクシーで出かけて見学。たいへんな人ばかりで、予約制の観客席でないとなかなかゆっくりと見ることはできませんが、それでも力作のねぶたを間近に見ることができて感動しました。また、夕食を食べた寿司屋の料理も絶品でした。

MSC スプレンドィダは、23 時に青森港を出港しました。出港前に船内で出国審査がありましたが、日本人については、クルーズカードで本人確認の後、パスポートのコピーを入管審査官にみせるだけで終了でした。しかし、出港が迫る頃、パスポート検査をしていない人の名前が何度もアナウンスされました。特に外国人が多く、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語等で連呼されていました。

翌日は、終日航海日でした。天気は回復しましたが、海上には白波がかなりみられる状態で、波高は 2~3m はありそうですが、14 万総トンの巨大な船体はほとんど揺れません。約 18 ノットでロシアのウラジオストックへと向いました。途中で、小さな漁船が点々と見えました。北朝鮮の木造漁船のようでした。双眼鏡で覗くと、小さな船にたくさんの半身裸の人が乗っていて、船上には干し魚が下げられていました。

早朝に、ウラジオストック港に入港しました。現地時間で 6 時(日本時間の 5 時)の着岸でしたが、また夜は明けておらず、暗い中での着岸となりました。船尾の船室だったので、スターンラスターの大きな振動で目が覚めました。

ロシアへの入国にはビザがありますが、船の用意したツアーに参加するとグループビザが自動的に発行されるシステムになっています。個人で市内を観光したい場合には、事前に日本でビザを取得しておく必要があります。ツアーに参加せずに、ビザもない場合には、船内に留まることになります。



青森港に停泊する「にっぽん丸」の姿です。「MSC スプレ  
ンディダ」の船上からの撮影です。



「ブルードルフィン2」の入港です。



「MSC スプレ  
ンディダ」が停泊したのは青函航路のフェリ  
ー埠頭の隣の公共岸壁で、船上から出入港するフェリー  
がよく見えました。津軽海峡フェリーの「ブルーマーメ  
イド」の姿です。



ねぶた祭りを初めて見ました。



青函フェリーの「あさかぜ 21」が出港していきました。





翌日は日本海を北上しました。時々、北朝鮮の木造漁船が操業中なのに会いました。



サンデッキでは日光浴をする白人外国人の姿が目立ちました。このクルーズには約 300 人の外国人客が乗船していました。



終日航海中のサンデッキは大賑わいでした。ただ、プールはちょっと寒い状態で、ジャグジーが人気でした。



ウラジオストックの港に到着しました。



隣はロシアの極東艦隊の基地です。



ウラジオストックの中心街と郊外の港を結ぶ旅客船です。